



左：個人情報を出さずに検索が可能。一般ボランティア用アプリ画面 中：小型発信器。ボタン電池で1年利用可能
右：検索に携わる職種の方や、積極的ボランティア用アプリ画面

ITの仕組みでつくる地域のスクラムで、 社会的弱者を見守る 「徘徊高齢者・こども見守りシステム みつくて.net」

▶ 会社DATA 株式会社ナスカ

- 本社／栗東市手原1-7-1 3F ■ 設立／1995(平成7)年
- 代表／井上 昌宏 ■ 従業員数／8名
- 事業内容／スマホアプリ開発・システム開発・ホームページ作成・Webマーケティング
- 問い合わせ先／TEL:077-554-3706
- URL／<http://www.from.co.jp/bss/>

インターネットがまだ社会で広く認知されていない1995年に、日本で3番目のインターネットカフェをオープンさせたのが株式会社ナスカだ。以来ホームページやWebマーケティングなどインターネットの最新技術を使った制作物やシステム開発、スマートフォンのアプリ開発など、常に最先端のIT技術でサービスを提供している。

そんな会社が2年前から開発を始めたのが「徘徊高齢者・こども見守りシステム みつくて.net.」だ。今注目されているIoT※1という考え方をいち早く取り入れ、ビーコン※2とアプリ、サーバーを組み合わせたシステムを構築。ビーコンを発信器としてアプリとサーバー

を用いて捜索者を探し出す仕組みだ。発信器にはボタン電池で小型・軽量のものを採用。高齢者や子供でもストレス無く衣服に装着できる。この10月に湖南地域で実証実験を開始したが、一足早く9月に認知症患者家族や施設職員が参加する全国規模のイベントでタスキリレー形式のテストを行った。その際偶然、ランナーが行方不明になるトラブルが発生したが、タスキに付けた発信器のおかげで数分で発見できたという実力通りの実績となった。

ナスカは、「このシステムをはじめ、当社のノウハウが滋賀県の街づくりネットワークのお役に立てば大変うれしい」と考えている。

※1 モノのインターネット。コンピューターではない「モノ」がインターネットを介して情報をやり取りする能力を備えていくということ。
※2 光や電波などを発する固定された装置などのことで、その信号を受信した電子機器などが現在地を知るのに使われる。

SHIGAGIN TOPICS

「しがぎん地方創生セミナー2015」を初開催

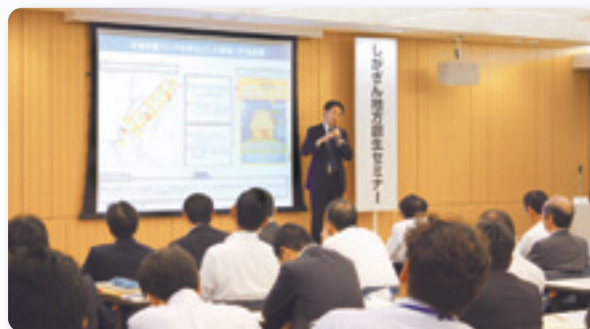
当行は10月5日、地方自治体職員を対象とした「しがぎん地方創生セミナー2015」を初めて開催しました。本セミナーは、「地方創生の深化」を推し進めるために企画されたもので、RESAS(地域経済分析システム)や空き家バンクの活用方法、当行グループの地方創生に向けた支援施策等を紹介しました。

第一部では、経済産業省近畿経済産業局の小山泰志氏が、地方版総合戦略の策定において、RESASをマネジメントツールとして活用する手法を、具体的なシーンを挙げながら説明。第二部では、株式会社船井総合研究所経営戦略事業部の柝尾圭亮氏が大都市から地方への移住・定住の広がりや課題を取り上げ、その解決策として空き家バンクの施策を紹介。山梨県富士河口湖町の事例を元に、官民共同施策の重要性を説明されました。

また、第三部では、当行地域振興室の取り組みやしがぎん経済文化センターの活動を紹介。講演終了後は、自治体職員と各支店長、本品行員を交えた意見交換会が行われました。

当日は、県および19市町、京都市の21団体を含めた約120名が参加され、「参考になった。今後も、同様のセミナーを開催してほしい」「引き続き、地方創生に関する情報提供をお願いしたい」との声をいただきました。

当行は、各自治体との連携をより一層強化し、地域の持続可能な成長を目指して、地方創生に取り組んでまいります。



空き家バンクの事例に耳を傾ける参加者